

# パーキンソン病 薬で抑制

## 病院の実力「神経難病」

医療機関別2012年治療実績と体制(読売新聞調べ)

医療機関名	年間患者数(人)	パーキンソン病のうち、発症硬化症(人)	年間患者数(人)	パーキンソン病のうち、発症硬化症(人)	研究に参加した医師(人)	国の難病研究に参加している(○)
鳥取大	338	148	32	32	○	
山陰労災	107	68	38	38		
国・鳥取	100	90	5	5	○	
鳥取赤十字	84	62	2	2		
養和	5	4	0	0		
県立中央	約300	125	15	15		
鳥根大	253	102	35	35		
益田赤十字	225	116	7	7		
大田市立	—	30	1	1		
岡山旭東	約750	約600	約40	約40	○	
岡山大	約600	約200	約50	約50	○	
国・岡山	500	150	35	35		
倉敷平成	約200	約120	5	5		
倉敷中央	181	25	11	11		
国・南岡山	131	59	11	11	○	
川崎医大※1	100	16	10	10	○	
広島大	1033	485	109	109	○	
大田記念	約500	約260	約20	約20	○	
国・呉医療セ	425	115	10	10	○	
県立広島	約400	約200	30	30		
中国労災	300	200	50	50		
広島市立安佐市民	270	250	10	10		
市立広島市民※1	108	17	12	12	○	
真愛	15	12	0	0		
翠清会梶川※1	14	6	0	0		
国・柳井	400	130	5	5	○	
山口大	350	100	55	55	○	
下関厚生	135	119	14	14		
徳山医師会	—	82	3	3	○	
徳島大	約1500	約850	60	60	○	
伊月	300	180	10	10		
香川大	462	156	64	64		
KKR高松	348	167	15	15		
高松赤十字	203	94	17	17		
香川井下	160	77	1	1		
愛媛大	300	100	50	50		
高知近森	251	132	27	27		

「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター、※1は入院のみ。「—」は無回答または不明。「○」は国の難病研究事業に参加した医師が在る医療機関。日本神経学会の専門医が在る医療機関を対象に調査。「愛」は愛媛県、「高」は高知県。

# 病院の実力

広島編 64

※全国の調査結果は「健康」に掲載し、果は「面に」ます。

## 神経難病

今回は、「神経難病」を取り上げた。診療を担当する神経内科は脳卒中や認知症、頭痛、てんかんなども扱うが、今回は、原因不明で有効な治療法が確立していない神経難病に限って治療実績をまとめた。

神経難病は、脳や脊髄の神経細胞のうち特定の細胞群が障害を受けて脱落したり、異物を排除する働きがある免疫細胞が患者自身の神経細胞を異物と誤って攻撃したりすることなどが原因で発病する。患者数が少ない病気が多い。表のうち、「年間患者数」は、2012年に神経内科で神経難病の治療を受けた入院と外来の実患者数を指す。

パーキンソン病は動作インターフェロンなどが使

神経難病は、脳や脊髄の神経細胞のうち特定の細胞群が障害を受けて脱落したり、異物を排除する働きがある免疫細胞が患者自身の神経細胞を異物と誤って攻撃したりすることなどが原因で発病する。患者数が少ない病気が多い。表のうち、「年間患者数」は、2012年に神経内科で神経難病の治療を受けた入院と外来の実患者数を指す。

多発性硬化症は、視力や感覚の障害、運動まひなど様々な症状が表れる。患者数は約1万2000人。平均発症年齢は30歳前後と若い。治療ではステロイドやインターフェロンなどが使

「国の難病研究に参加した医師」は、難病性疾患克服研究事業の補助金対象研究に、2012年に

参加した医師がいくらかどうかを聞いた。この研究に参加する医師は、神経難病の治療経験が豊富と考えられる。

多発性硬化症は、細菌やウイルスから体を守る白血球やリンパ球などの免疫系が、何らかの要因で脳や脊髄を攻撃するようになって発病すると考えられています。視神経が攻撃されれば視力低下や眼球の痛みが現れ、脊髄であれば手足のしびれや排尿障害などを発症。急性期の治療では、ステロイドなどを使う他、透析のような「血液浄化療法」を施すこともあります。



鳥居剛・神経内科長

呉医療センター・中国がんセンター

## 患者らとの意識疎通重視

原因不明で有効な治療法が確立していない神経難病。呉市青山町の呉医療センター・中国がんセンターの鳥居剛・神経内科長(45)に治療法などについて聞いた。(小宮宏祐)

神経難病の代表的な病気には、パーキンソン病と多発性硬化症があります。いずれも完治が難しい病気ですが、検査法や治療法の進展で病気がとうまく付き合っていくけるようになります。

パーキンソン病は治療をしなければ徐々に進行し、寝たきりになることもある病気です。神経伝達物質のドーパミンが不足することで発症するため、治療ではドーパミンを補う薬を内服し、病状をコントロールすることが基本となります。

また、生活の質を保てるよう、「緩和ケア」にも力を入れ始めています。手足の震えや急に目が見えにくくなったなど体の異変を感じたら、専門医を受診してほしいと思います。